



む	ぎ	こ	む
ぎ	こ	む	ぎ
こ	む	ぎ	こ
む	ぎ	こ	む

マルハニチロユニオン × 日清製粉労働組合

「アフターコロナ」に向けて

マルハニチロ
ユニオン中央書記次長
名古屋 雄一中央書記長
山本 千尋中央執行委員長
白山 友美子中央執行委員
武井 友里恵書記長
松本 雄哉中央執行委員長
山下 恒由日清製粉
労働組合「働き方改革」は
どうなった？

松本 今日はよろしくお願ひします。今回は、アフターコロナに向けてこれまで緊急対応してきたことをどう定着させるのか、というようなことからお話しできればと思います。当社では2017年ぐらいいから「働き方改革」が言われるようになってきたが、コロナになって否応なく働き方が変わった結果、働き方改革って何だったっけみたいな感じに今ちょっととなっている気がしています。

白山 マルハニチロユニオンでは、広く働き方に関してちゃんと話し合える場所を持つということ、組合発信で「めりはりのある働き方検討委員会」を会社側にもちかけて、年に1回程度開催しています。例えば物流部門では労使合同でアンケー

トをとって、会社での働き方について、管理職も組合員も、契約社員さんも、みんなで分析して、課題を抽出して、対策を考

えるということもやっています。コロナが来てうまくいかなかった取り組みもありますけどね。

名古屋 直近はコロナ関係で、在宅勤務手当についても話し合えたらなと思っていますね。

松本 なるほど。まさに僕らも2020春闘で在宅勤務手当を要求しました。その時は会社からは今の在宅勤務制度は緊急避難で運用しているから、制度自体をまず考えようって話があつて、簡単に言うとな宅勤務制度を拡充して定着させましようっていうのが今の会社の考え方なのかって思っています。マルハニチロさんとしては在宅勤務自体は会社として推奨方針ですか？

目指して在宅勤務をやっているという会社の考えがあつて、2020年7月に、労使協議会で話し合つて在宅勤務制度を導入しました。マルハニチロに関しては回数制限を設けない形で、上長が認めたら何回でも在宅勤務できる制度になっています。ただ、在宅勤務自体があくまで自分のベースに合わせた働き方の選択肢の1つであるという考え方から、手当については考えていない。なので、在宅勤務で光熱費の発生などがデメリットだと思つた場合は会社に来て業務を行つてくださというの、基本的な会社の考え方ですね。

松本 手当に関しては当社も同じ考えですね。世の中でも在宅勤務を推奨会社は手当も出さずし、あくまで選択肢としては認めるよつていう会社はそういう考えになりますよね。在宅勤務の組合員側の利用状況はいかがですか。

山本 働き方としては、在宅勤務が始まったばかりの頃って、やっぱり在宅じゃできない仕事結構あつたんです。例えば、どうしても出社して捺印なきゃいけないとか、FAXを受け取らないといけないから出社しますとか、そういう声をすごく聞いてたんですけど、それがだんだん職場の話し合いの中で、在宅勤務できる形に変えていったというのは、最近結構聞くようになりました。もちろん残つてはいるんですけど、変わつてきているとは思いますが、それから、始まつたころは、仕事とプライベートをうまく切り分けられませんかという話も聞いてたんですが、最近はなくなくなりました。まだBCP対応の中ではあるんですけど、当たり前在宅勤務をするようになってき



て、上手く通常業務の中に在宅勤務を取り入れる人たちが、増えてきたのになつて感じます。

武井 私、本当にコロナが増え

てきたときは研究所にいたんです。研究は出社しないと進まないのに、在宅勤務を指示されて、自分の仕事は緊急時には不必要な仕事なのかつてちょっと考え込むこともありました。結局在宅勤務しようとしても仕事を進められない人もいると思うんで

すが、そういった事例ってありませんか。

名古屋 当社でも、工場勤務者とか物流の倉庫に勤務してる方で濃厚接触となって出社を控えている人たちとかは、在宅での仕事に限られるので、自主学習に励んでくださいと会社から言われていました。ただ、何をすればいいんだろうっていう問い合わせは結構当初ありましたね。

松本 環境としてもモバイルPCを持ってないから、在宅しようとしてもできないという声はありますね。

名古屋 システム関連も進んだなという印象はあって、まだ工場勤務でパソコン持っていない人は対象外だったりするんですけど、スマートフォンを配ったりとか、パソコン環境を整えたりとかってというのは一気に進んだなという印象ですよね。



果としていい変化だったのかもれないなと思っています。

松本 少し話戻りますが、働き方改革の目的って、「生産性向上」と「多様な働き方の実現」の二つがあると思います。コロナの前は生産性向上がメインだったと思うんですよね。それが今は多様な働き方を実現するためにいろいろやらないとってなった結果、生産性も向上しているみたいな方向性になってきている気がします。その点が自分の中で感覚として少し変わった部分なんですよね。



松本 うちも本社地区では固定電話をなくしましたが、やっぱりそういうところで変わってきたんだなって実感しますよね。そういった点では、コロナ前の働き方改革と、コロナになってからの働き方改革って、延長線上にないような気がしているんですよね。

山本 私としては根本的にはそんなに変わったとは思わなかったですけど、どうですか。

名古屋 私もそれで、先ほど言った通り、道筋として、元々やろうとしてたことがコロナも相まって一気に進んだっていう

名古屋 確かに生産性の向上というよりかは、多様な働き方先行で露出が多いなっていうのは感じますね。

「全員共通の正解」がない時代

松本 そうなってくると、多様な働き方を実現しようってなったら、全員で同じことを目指せないんじゃないか、全員共通の正解、これだったら全員OKっていうものはなかなかない。そういう時代になってきたときに、僕らが労働条件を上げていこうとするあり方ってどうやっていけばいいんだろう、ということはずっと考えています。そういうところってどういう考えでやられていますか。

名古屋 すごく難しいところでですね。在宅勤務やフレックスは、工場とか物流倉庫で働かれています方って、職務上難しい。ただそ

感覚です。

山本 実際に制度が導入されて、その中でどういう働き方をするかっていうのは、結局労働者が考えていかないといけない部分だと思っています。制度が拡充されたから勝手に働きやすくなるかっていうと、やっぱりそうじゃないんだなっていうのは、実際現場の組合員さんと話をしていると、とても感じる部分ではありますね。

白山 想定してなかった課題が浮き彫りになったとかは、結構コロナの影響を受けたんだなと思いますね。コミュニケーションの希薄化が、こんなに社会的に取り上げられるようになるとは思わなかったです。それに伴ってなのか、若手でメンタル不調とか、休むまで行かなかったとしても孤独を感じてしまうとか、そういうことは想定以上に多かったように思

こで働かれてる方たちも、多様な働き方の検討はしていかなきゃいけない、というところで、本当に悩んでいます。その職場でできる最大限の多様な働き方というのは何か、ということはやっぱり現場で働いてる方たちが一番わかると思うので、そこ

でいかに声を上げてもらうか。一方で、在宅勤務やフレックスができる職場に関して、進めていくこと自体はいいことだと思います。逆にそこが進んでいかなかったら、工場とか物流倉庫の人たちも取り入れることが難しいとは思っているので、できることからできることを探していこう、ということになりますよね。

白山 突き詰めていくと、社会課題に繋がることも多いのかなとは思いますが。一番のボトルネックは結局なんなのか、ということをお聞きしたいです。そこが解決されて社会課題の解決

います。

武井 私あの時、一人暮らしのワンルームの六畳ぐらいの部屋に1ヶ月いて、本当にもうこの世の終わりかなと思いましたが(笑)。狭いスペースで外にも出ることできないし。誰とも本日に1日中喋らない。

名古屋 特に1年目とか2年目とか、自分の仕事をあまり把握してないとかどう進めたらいいかわかんないというときに、多くの人が一人暮らしでメンタル不調になっちゃうということはあって、そこから会社としても施策を考えようという変化はありましたね。

山下 グループチャット作って毎日必ず投稿するとか、新入社員にはテレビ電話で電話するようになってるとか、何とかさういったコミュニケーションを取らないといけないという意識にみんながなってきたことは、結

に繋がれば、広く、本当に誰でも生きやすい世の中に一歩近づけるよね、という発想が必要。その上で、人それぞれの好ましい解決策みたいなのは違ってくるので、解決方法は今後もっともつと多様になっていくんじゃないかな。我々最近よく発信する様にしていることなんですけど、労働組合って元々助け合いの精神で始まった組織なんだから、助けが必要な人をちゃんとみんなで行こう、ということになるべく多くの人に伝えていくことも大事だと思いますね。

山下 我々は、いままで賃上げとか退職金とか、全員に恩恵あるものしか要求してこなかった。今年3月の春闘で10年ぶりに諸要求をやったときに、支部と意見交換する中で感じたのが、思ったよりもみんな自分のことじゃなくても、困ってる人がいるんだっいたらやるべきだったという声

も多かった。すごくそこは安心できた部分もありますね。

武井 確かに、工場と研究所と本社、営業とか、全然仕事の内容が違うので、要望も違うものが挙がってくるのは当然だし、何か要求するにしても、なんとなくどこかだけじゃない方がいいのかなって支部側から思っていました。

松本 さっき白山さんがおっしゃったことですが、具体的に表面に出てきている要望、例えば何か手当が欲しいみたいなことの場合、結局会社もそれに対してイエスカノーか、という話で表面的なやり取りになってしまう。そもそも何が課題なのか、ボトルネックは何か、ということを探して、その課題について話し合う中で解決策が生まれる、というやり方が時間がかかって前進に繋がるのではないかな、と感じています。

求める世の中で、組合は腰が重い、時間がかかるみたいなイメージになってしまいがちなと思います。組合員の皆さんに正しく理解をしてもらいたいことは、全員の総意になって初めて会社と対等に話し合えるわけだから、全員で意思決定ができる場所が限られているところでしょうか。

松本 一方で昔は組合がやってきたようなことを会社がやるようになってきている時代になっていますよね。部門別で交流会やるう、とか。

白山 当社も全く同じ傾向があるから、トレンドなんだとは思いますが。だからこそ、会社がやってくれるなら嬉しいなっていう気持ちですね、どちらかというと。もっとやりたいこと我々もあったから、そっちに手まわせるな、と。

山本 同じことをやっていて



名古屋 我々は前々から春闘は賃金引き上げと一時金の交渉の場である、ということを会社と決めていきます。その他の制度改革だとかに関しては、通年の労使協議の中で行うという部分を、完全に棲み分けていますね。春闘だと会社側もやっぱり2〜3週間で回答を出さざるを得ないので難しいですね。

山本 一年以上続ける協議もありますし、必ずしも要求通りに寄せられている声と、私たちが持つてる声が全然違うということは何度もあります。だから、同じことでも私達から見えることとか言えることもたくさんあると思います。集めた声をどの場面で伝えるのがベストなのか、ということは私達も悩んでいる、適切なところで、適切な伝え方をする。それが我々として必要なんですけど、私も組合専従歴5年になりますが、まだまだ悩みながらやってる部分ではありますね。

山下 最終的にはその人の人生が幸せであればいいですよ。苦しい思いして勤めて欲しくもないし。自分だけがよければいいじゃなくて、1人1人がだれかのために行動できるように、それが本場に良い職場、良い会社を作ることに思っています

通らないものもありますが、かなり時間をかけてしっかりと話し合うという形ですね。

松本 テーマ別に協議をするんですか。それとも定例の協議があつて、その中で話し合いをしているんですか。

名古屋 会社・組合それぞれから申し入れ、定例ではなく必要に応じて案件ごとに同時並行的に労使協議をやっていますね。四つ五つとか、同時にやることもあります。

山本 必ず職場に共有して職場の意見を集めて、それを踏まえた上でどういう判断をするのかを中執で議論をするっていうのを全ての協議において漏れなくやっています。本当にどんな小さな変化のものでも必ず職場の意見を集約して、これは組合としての総意になるかって、合意ができるのか了解できるのかという決定は徹底

的にやってきていますね。

名古屋 同時進行するときは結構大変ですよ。

松本 本当に大変ですよ。すごいと思います。うちの場合は、定例の労使協議の中で結構長めに時間取ってくれているので、まずはそこから始めていくつもりです。

白山 総意を築かなきゃいけない、ということは大会にかけなきゃいけないってなると、組合からの申し入れは時間かかりますね。

松本 僕は会社では人事関係の仕事をしていたので、会社の制度を変えようとするの大変なんですけど、意思決定の機会は取締役会で、月2回ある。それでも遅いと思っていたのに、組合に来ると年に2回しかない。最初は衝撃でした。

白山 会社だけじゃなくて組合員も効率だとかスピードだとかね。本日はありがとうございます。



第69期 支部執行部メンバー紹介

函館支部

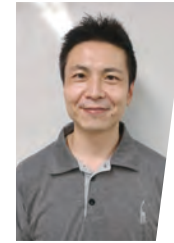


- 平泉 公孝 支部長
- 三好 聡 副支部長、企画調査部長、組織部長、財務部長A
- 稲員 高節 書記長
- 右松 匠 書記次長、教育宣伝部長、青年婦人部長、共済・厚生部長

仙台支部



- 島田 健太郎 支部長
- 井上 明彦 副支部長
- 井上 敦喜 書記長
- 菅井 由香 書記局、企画調査部長
- 大場 聖子 組織部長、教育宣伝部長、財務部長A



中央執行委員長

山下 恒由 *Tuneyoshi Yamashita*

中期ビジョンも3年目に入りました。「認め合い」「助け合い」「高め合い」の精神で、皆さんと共にビジョン実現に向けて邁進していきますので、今期もよろしくお願致します。



書記長（ハッピーライフ部）

松本 雄哉 *Yuya Matsumoto*

「働く」ということに対していろんな考え方、姿勢を持つ方が同じ会社にいることが当たり前となっている今、労働組合の存在価値・立ち位置は少しずつ変わってきているような気がしています。「組合のため」ではなく「組合員のため」に私たちは何ができるのか、日々考え、実行していきます。ともに頑張りましょう。



中央執行委員（ハッピーライフ部）

佐々木 洋治 *Yoji Sasaki*

中執3期目を務めさせていただきます。多くのことを勉強させていただいていますが、組合も仕事と同じで一人ではできません。よりよく組合が変わっていきけるように今期も頑張っていきますので、どうぞ皆様のお力添えをお願い致します。



中央執行委員（支部活動運営部）

荒井 幸好 *Yuki Yoshi Arai*

今期より中執メンバーとして仲間入り致しました。やっていけるか非常に不安ですが持ち前の、前向きな気持ちを持って携われたらと思います。皆様のお力になれるように努力します。優しい眼差しでお願いします。



中央執行委員（ハッピーライフ部）

岡本 紗苗 *Sanae Okamoto*

はじめまして、69期中央執行委員の岡本です。コロナが収まってきた今、美味しいごはん美味しいお酒を求めて友人と旅行するのが生きがいです。組合経験が浅く慣れないことも多いですが、組合員の皆様の声に耳を傾け、より働きやすい職場を作っていくように精一杯頑張ります！宜しくお願いします！

— 第69期 — 中央執行委員会 メンバー紹介



中央副執行委員長（支部活動運営部）

赤木 剛 *Go Akaki*

コロナの収束はまだ見通せない中、withコロナへと舵を切っている状況でも活動が停滞しない様に組合も変化しながら取り組む必要があると思いますので、皆さん協力をお願いします。



書記次長（広報部）

島津 浩介 *Kosuke Shimazu*

新任書記次長の島津です。日清労組としては初の技術系出身の専従者とのことで、選任いただき光栄です。皆の意見を聞き、議論し、未来へ向けての改革に尽力致します！よろしくお願いたします！



中央執行委員（支部活動運営部）

松尾 成樹 *Shigeki Matsuo*

今期で2期目の中執を務めます。組合を身近に感じてもらい、ワクワクする組合活動に取り組んでいきます。直接対話と出会いを大切にしていきますので、「しつこい」と思っても笑顔でスルーしてください！



中央執行委員（支部活動運営部）

武井 友里恵 *Yurie Takei*

入社してからいろいろな部署（支部）を転々としております。組合経験はあまりありませんが、皆様の職場や労働環境をよりよくしていくよう精進しますので、一緒に頑張っていきます！

上福岡研究所



- 三田 裕継 支部長
- 多田 日菜子 副支部長
- 岡 千尋 書記長
- 村田 京介 書記次長
- 青木 由紀恵 書記局、企画調査部長
- 九里 啓太 組織部長
- 鳥井 昭良 教育宣伝部長
- 今井 美穂 財務部長A
- 荘司 翼 共済・厚生部長



館林支部



- 前田 貴宏 支部長
- 村田 祥之 副支部長、組織部長
- 眞仲 剛史 書記長
- 阿部 広輝 書記次長、企画調査部長
- 永井 由佳里 書記局
- 栗原 直人 書記局
- 辰己 涼也 教育宣伝部長、青年婦人部長
- 栗田 利明 財務部長A



千葉支部



- 宮内 祐介 支部長
- 齊藤 尊 副支部長
- 安井 良 書記長
- 丹野 晃昭 書記次長
- 佐久間 恵 組織部長
- 菅澤 遼 教育宣伝部長
- 佐藤 勇翔 青年婦人部長
- 竹倉 俊也 財務部長A



上田支部



- 中島 智昭 支部長
- 角田 篤 副支部長
- 遠藤 冲広 書記長
- 赤羽 秀幸 書記次長、教育宣伝部長
- 花岡 洋一 企画調査部長、組織部長、共済・厚生部長
- 山崎 久美子 財務部長A



鶴見支部



- 益田 翔 支部長
- 秋田谷 栄寿 副支部長
- 塚本 浩次 書記長
- 西田 和樹 書記次長
- 西野 和則 企画調査部長
- 吉田 理紗 組織部長
- 佐藤 晃彦 教育宣伝部長
- 林 透太 青年婦人部長
- 三好 功大 財務部長A



名古屋支部



- 溝 康司 支部長
- 西原 隆典 副支部長
- 飯見 剛 書記長
- 田中 秀和 書記次長
- 駒田 匡美 書記局
- 吉藤 孝行 企画調査部長
- 実法 茂 組織部長
- 青木 康祐 教育宣伝部長
- 紺野 佑貴 青年婦人部長
- 浅野 秀司 財務部長A
- 櫻井 伸哉 共済・厚生部長

本社



- 窪田 秀将 支部長
- 山本 真利亜 副支部長
- 南部 祥宏 書記長
- 清水 美里 書記次長
- 大木 愛絵 書記局
- 今井 優香理 書記局
- 太田 貴大 企画調査部長、共済・厚生部長
- 野中 信吾 組織部長、教育宣伝部長
- 宇野 美孔 青年婦人部長
- 堀口 真未香 財務部長A



東京支部



- 武士俣 和直 支部長
- 大沢 広志 副支部長
- 踏分 湧太 書記長
- 西村 圭史 書記次長
- 櫻井 賢克 書記局
- 越智 博介 書記局
- 山田 みのり 書記局
- 増田 祐太郎 企画調査部長
- 酒井 宏輝 組織部長、財務部長B
- 小野 円香 教育宣伝部長
- 永松 義裕 青年婦人部長
- 田川 祐真 財務部長A
- 足立 純子 共済・厚生部長

大阪支部



- 中村 太一 支部長
- 菊池 駿吾 副支部長
- 深見 光太郎 書記長、書記局
- 中谷 太一 書記次長
- 海老原 遥 企画調査部長、青年婦人部長
- 小島 里野 組織部長、教育宣伝部長
- 田中 里香 財務部長A



知多支部



- 斧田 礼人 支部長
- 道券 幸弘 副支部長、共済・厚生部長
- 樋口 昇 書記長
- 蟹江 光生 書記次長、財務部長A
- 古川 孝明 企画調査部長、青年婦人部長
- 吉川 徹 組織部長、教育宣伝部長



東灘支部



- 角田 久幸 支部長
- 中西 匡志 副支部長、共済・厚生部長
- 佐々木 孝行 書記長
- 馬淵 貴弘 書記次長
- 片山 優海 企画調査部長、組織部長
- 村上 真太 教育宣伝部長
- 村谷 英宣 青年婦人部長
- 宮本 慶弥 財務部長A



名古屋営業所



- 相原 佐紀 支部長
- 渡邊 峰大 副支部長
- 山田 大河 書記長
- 加藤 里菜 書記次長
- 沓名 由希子 企画調査部長
- 加藤 裕哉 組織部長、教育宣伝部長
- 寺島 直 青年婦人部長
- 村上 香織 財務部長A



福岡営業所



- 久保田 晋平 支部長
- 宗 由里子 副支部長、共済・厚生部長
- 白木 宏和 書記長
- 森永 えりか 企画調査部長、組織部長、教育宣伝部長
- 成松 祥子 青年婦人部長、財務部長A



岡山支部



- 鈴木 計弘 支部長
- 平松 昌夫 副支部長
- 中畑 達也 書記長、書記局
- 新田 哲也 書記次長、企画調査部長
- 堀川 知希 組織部長
- 田口 里恵 教育宣伝部長、財務部長A



福岡支部



- 酒井 豊和 支部長
- 遠藤 太架雄 副支部長、組織部長
- 松尾 真澄 書記長
- 山田 剛也 書記次長
- 岡田 崇平 企画調査部長、共済・厚生部長
- 古川 博文 教育宣伝部長、青年婦人部長
- 斎藤 努 財務部長A



坂出支部



- 佐藤 幸作 支部長
- 伊賀 裕二 副支部長、企画調査部長
- 黒田 隆 書記長
- 大西 眞司 組織部長、教育宣伝部長、共済・厚生部長
- 佐藤 勝行 財務部長A



コモリ そうね。今回、小麦価格の据え置きが発表されたけど、フード連合を通して産業界政策活動しながら政治に訴えかけてきたことも少し実ったような気がして嬉しいね。もちろん、これだけ大きな話だからいろんな人たちが動いてきた結果なんだと思うけど。

ミタ 今回の定期大会で可決された組合費の本化とか、「環境の整備も地味ですけど、組合活動として本来やるべきことに集中するために大事なことですよな。」

コモリ とはいえ、ビジョンの実現は、これからの中央執行部に期待だな。個人的には志半ば…。一丁目一番地だと思ってきた諸要求について具体的な成果が出なかったことは書記長として残念ではない。

ミタ まあ、志ってものは常に半ばですよな。

コモリ いいなその思い切り。または、あきらめ。

ミタ それでじょう。それでじょう。

コモリ 何回も言うけど、寝てないから。

コモリ でも、俺たちの思いは次の役員みんなにも受け継いでほしいよな。

ミタ それですね。やっぱり、楽しく、クールで、セクシーにやってほしいですよな。

コモリ ほう。ちなみにセクシーに組合活動するっていうのは、どっぴり意味？

ミタ それをどっぴり意味かかって説明すること自体がセクシーじゃないですよな。

コモリ ……

ミタ それで、どうなんですか、「コモリさんの思いは、俺は説明しましたよ。」

コモリ なんか納得いかないけど、そっだな、やっぱり書記長としてベースに置いてきた言葉としては

天の声 「組合員の組合離れの本質は、組合役員の組合員離れである。」ですよな？

コモリ え、あ、はい。なので、

天の声 「組合のための仕事ではなく、組合員のための仕事をする」ことを大事にしてやってきた、ですよな？

コモリ あ、ですね。はい。

天の声 ファイナルアンサー？

コモリ ファイナル、アンサー…。

天の声 ……。いいと思います!!

コモリ あ、はい。ありがとございます。

ミタ 「コモリさん、いいこと言うじゃないですか。」

コモリ まあ2年間、いろいろやってきたけど、現代の労働組合は、組合ができた当初の「数の力で案件闘争」という役割は薄れ始めていると思う。むしろ、組合員の皆さん一人一人がそれぞれ自分の人生を良くするために努力しているわけで、その努力を後押しして、一人一人の日清人生をより幸せに近づ

ミタ 定期大会も終わって、俺も退任か。なんか、長いようであつという間だったなあ。

コモリ お疲れ。しかしこの2年間は、「コロナ禍の中で中期ビジョン最初の2年、この2年で、本当にいろいろなことがあったよな。」

ミタ ですね。ガッキーも結婚しましたしね。

コモリ 引きずりすぎにもほどがある！

ミタ まあでも、いまや私の推しはキョンキョンこと小泉今日子様ですから。

コモリ お、おう(いつの間にか、「天の声」に感化されている…)。

ミタ そんなことはおいといて、67期・68期はコロナ禍真っ最中のなかでON25ビジョンの開始というところで、結構いろいろなことがありましたね。

コモリ え？ 俺のセリフ…。

ミタ ビジョンの実現に向けて、っていう意味では活動の柱それぞれに濃淡はありつつも進展がありましたよな。

コモリ まず諸要求というものに対して一石は投げられた、ということもあるし、36協定についてはガイドラインを策定し、毎月の事前協議が各地同一フォーマットで実施されるようになったことは具体的な成果かな。

ミタ なんでも相談日とかもはじめましたしね。小さな一歩かもしれませんが、進んだことでもありますね。

ミタ 幸せ、かあ。

コモリ 最近「ウェルビーイング」という言葉で言われることも多いね。

ミタ 幸せって「ハピネス」じゃないんですか。

コモリ 「ハピネス」は「瞬間的な幸せ」を指しているけど、「ウェルビーイング」は「持続的で多面的な幸せ」と言われている。肉体的にも、精神的にも、社会的にも満たされた状態が続いている、と感ぜられること。組合も、これを目指しているかないといけない時代になってきたんじゃないかな。これは難しいよ。だからこそ、今の組合活動をやりがい持ってきた気がするし、これから中央執行部にも頑張ってもらいたいな。

ミタ やっぱ話長いっすね(なるほど！ よくわかりました！)。

コモリ だから逆なんだよ！ 心の中セリフが！



中執のミタ

最終回 「ミタとともに去りぬ」



登場人物

中執のミタ



軽い気持ちで中央執行委員に就任したこの男も、ついに卒業の時を迎える。

書記長のコモリ



日清労組のザ・中間管理職。5年間お疲れ様でした。エラくなってくれ、俺たちの分まで。

天の声



長野県上田市出身、50歳。天の声歴3年。普通の交代勤務に戻ります！

登場人物は想像上の存在です。類似する実在の人物への誹謗中傷等はお止めくださいますようお願い申し上げます。

退任者からの メッセージ



小森 崇史
Komori Takashi

5年前、私が中執1年目の最初の研修で聞いた「組合員の組合離れの本質は、組合役員が組合員離れである」という言葉が胸に刺さり、組合員視点を忘れずに取り組んできました。私の在任期間中はコロナ対策で満足に活動できませんでした。それでも「2025 Vision」の策定や労働時間の実態記録、10年ぶりの諸要求、組合のNIネット導入、組合費業務・財政改革などに挑戦できたのは、皆さんからの理解・協力のおかげです。日清製粉グループ労使の「歴史の繋がりに」や「社会との繋がりに」を学べたこと、支部や他労組とのたくさんの「人との繋がりに」ができたことは私の一生の宝です。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます！



遠藤 沖広
Endoh Kihiro

このほど任期を迎え退任することになりました。中執のミタに天の声で登場させていたのだと遠藤です。この3年間でまずは第66期より新たに日清労組の2025 Visionが立ち上がったこと、また2年目からはコロナ感染症拡大ということで非常に変化を求められた年でありました。それに伴い支部訪問なども直接訪問できずWEB対応となり、私はPCが得意でないこと、またプラスして急に老眼になり悪戦苦闘しながら対応した事を思い出します。私の担当支部の方には迷惑をお掛けしてしまったこともあったかと思いますが、皆様からの温かいサポートを受けて本日を無事迎えることができました。今後支部の組合活動を通じて、また皆様と一緒にする機会があるかと思いますがよろしく願っています。



三田 裕継
Mita Hirotsugu

67〜68期の2年間、エッジ選出の中央執行委員を務めさせていただきました。支部4役を務めたことがなく、組合の知識がない中でのスタートとなりましたが、組合本部および支部執行部の皆様のご協力のおかげで無事に務めることが出来ました。有難うございました。在任中は中央執行委員会、労使協議会、支部訪問、フード連合の勉強会等を通じて、グループ各社の施策や動向、世間動向について学ぶことができ、貴重な経験をさせていただきました。今後は上福岡研究所支部の支部長を務めます。中央執行委員で得た経験、知識を生かし、業務に励むとともに、支部長として会社や日清労組の更なる発展に少しでも貢献できるように尽力していきます。

